

生涯学習課 NEWSLETTER



福島県文化スポーツ局 生涯学習課

TEL : 024-521-7404

MAIL : shougaigakushuu@pref.fukushima.lg.jp

No. 21 R8. 6. 24



ニュースレターの概要

このニュースレターは、平成 27 年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復興・再生や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをささえる、いかす、ひろげる、つなげる」ため、発行しています。

皆様方からも、多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

「問い」を持ち、試し、分かち合う場所 ―飯館村「図図倉庫(ずっとそうこ)」の実践―



福島県飯館村にある「図図倉庫(ずっとそうこ)」は、ホームセンター跡地を活用した「環境と対話する実験基地」として、シェアオフィスやテナントとして企業・研究者・移住者など多くの人が集い挑戦や実験ができる場です。図図倉庫を運営する代表の矢野淳(やのじゅん)氏に、活動の背景や場づくりの考え方、生涯学習としての意義、そして地域との関わりや今後の展望についてお話を伺いました。



矢野 淳(やのじゅん)代表

■ 設立の背景と活動の出発点

矢野氏は、「環境を自分たちで確かめたい」という思いから取り組みを始めました。原子力災害後の地域において、与えられた情報だけでなく、自分自身で判断するためのものさしを持つことが原点となっています。「図」という字には「工夫して努力する」「目的のために工夫する」という意味合いがあり、「ずっと」続く地球環境づくりを目指したいという考えから「図図倉庫」と名付けたそうです。

以前から縁のあった飯館村で活動をスタートし、「地域の人々に助けられながら場をつくってきた」と語ります。「分からないことを面白い」風土の中で、人と人との関係が広がり、現在の図図倉庫の形が育まれてきています。



イベントスペース

■ 「自由研究」としての学びと場

空間づくりの思想的な支柱となっているのが、生物学者ユクスキュルの「環世界」という概念です。人間の知覚には映らない世界が存在するように、人と人のあいだにも感知しにくい部分があります。図図倉庫はそれを尊重する場として設計されています。

本や家具、建材は持ち寄りや再利用されたものによって構成され、地域の資源が活かされています。そこには「自然環境に生かされている」という考え方がデザインの根底にあります。

図図倉庫は「自由研究をする場所」として位置づけられています。利用者はアーティストや研究者に加え、企業や学生など多様な人々が関わっており、分野を越えた交流が日常的に生まれているのも特徴です。互いに異なる価値観を持ち寄り、「ごちゃませ」にすることで、思いがけない発見が生まれる場を目指しています。



採取した土のサンプルや地層の展示

■ 問いから深める生涯学習

図図倉庫の学びは、あらかじめ用意された答えを目指すものではありません。不思議さや違和感から生じた問いを起点に、自ら考え、探究していくことが重視されます。放射線のような「見えないもの」をめぐる問題も含め、さまざまな問いについて、学生・研究者・地域住民など異なる立場の人々が捉え直す機会を提供しています。

好奇心を刺激し、次世代を育み、さらに、社会や地域の見え方(課題や価値)への解像度を高め、選択肢を増やしていくプロセスは、生涯学習の本質とも重なります。「短期的には良いと思えることでも、中長期的に見たらどうか」という判断軸を育てることにもつながっています。実際に関わった学生の中には、進路や生き方に影響を受けた例も多く見られ、学びが行動の変化につながっていることがうかがえます。



飯舘村を描いたアート

■ 地域との関わりと今後の展望

図図倉庫の活動は、地域との関係の中で支えられています。施設づくりにおける資材の提供だけでなく、住民一人ひとりの知識や技術を活かすことで、新たな価値が生まれています。地域資源も、その背景や文脈とともに捉え直すことで、新しい魅力として再発見されています。

矢野氏は、公民館や生涯学習の現場にも通じる視点として、こう話します。

「図図倉庫は個人個人のつながりの連鎖で成り立っています。興味関心や欲求の刺激が原動力で、”どうすればできるか”で考えることが大切。外に出て、いろいろなものを見つけることも大事です」。

外に開かれた関係を築くこと、そして挑戦を続けることの重要性が示唆されます。

今後は「被災地としての飯舘村」ではなく、「飯舘村から社会的な問いを多分野で読み解く場」として発展させたいと展望を語る矢野氏。

「東京での活動や法人化も、飯舘村での取組をより多くの人に知ってもらうための布石です。地域とのネットワークを資源とし、“自由研究集積所”としての歩みを今後も広げていきます」。



セルフ Café スペース

これまでのニューズレターはこちらから

⇒ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055b/nyu-zureta-.html>

図図倉庫の施設案内はこちらから

⇒ <https://www.zuttosoko.com/>

2026年7月末にフェーズ2を迎えるそうです。ご注目ください！

⇒ <https://note.com/zuttosoko/n/n51e957e58c36>